

「砥上神社にみる神社合祀」

宇都宮伝統文化連絡協議会顧問 柏村 祐司



愛宕塚上に
建つ砥上神社
本殿

姿川中央小の北約五〇〇メートルの所に下砥上の鎮守砥上神社がある。この神社の本殿は、愛宕塚古墳の上に鎮座している。普通、古墳の名は、その上に神社が祭られている場合には、その神社の名前で呼ばれている。ところが下砥上の愛宕塚古墳は、その上に鎮座する神社が砥上神社であり、古墳名と神社名とが一致しない。

平成二十九年春、「姿川歴史と文化の会」で、砥上神社境内にある石碑等の調査を実施した。そうしたところ、古墳の墳丘上の南西部に明治四十四年四月十三日に建立した「合祀記念碑」があることがわかった。神社合祀が古墳名と神社名とが一致しないことに関わっていたのであろう、その謎解明のきっかけがつかめたのである。しかしこの石碑には神社合祀の経緯が記されていない。そこで『栃木県神社誌』（栃木県神社庁 昭和三十九年）にあたって見ると、「古来より星宮神社と称し来たりしところ明治二年四月に九日砥上神社と改称す。明治四十四年十二月愛宕神社合併砥上神社と称号す」とある。さらに、幸いなことに砥上自治会では、自治会長持ち回りの重要な書類として明治四十四年の姿川村長宛の合併許可願い書を保持していたのである。これらから砥上神社と称する以前は、星宮神社と称しており、明治二年に砥上神社と名を改め、さらに愛宕神社と合併し、愛宕神社のあった所に砥上神社を遷したことがわかる。筆者の読み通りであった。

ところでもともと星宮神社と称していたのをどうして砥上神社に改称したのであろうか。それは明治初期の神仏分離による。旧来、星宮神社は虚空蔵菩薩を祭っていたが、神仏分離の際に「仏」としての姿を拭い去るために岩析根析神を祭神とし併せて砥上神社と名を変えた次第である。それが愛宕神社と合併したのは、前述の許可願いによれば、愛宕塚古墳のある所が風致上優秀で、かつ、旧来の星宮神社からも距離が近く集落から余り離れていなかったことによる。なお、愛宕神社と合併した際に、村内にあった月読神社、および皇大神宮も合併した。こうして旧来の愛宕神社を取壊し、新たに砥上神社の本殿と拝殿を建て鎮守社を一新したのである。

前述の「合祀記念碑」は、明治四十四年に一連の合祀手続きが完了したところ
で、それを記念して建てたものである。あえて、このような記念碑を建てたのは、明治政府の神社合祀令を受けて砥上地区の人々が見事に神社合祀を成し遂げた喜びと誇りからではなかったらうか。
明治政府は、明治元年の神仏判然令（神仏分離令）に続き、明治三十九（一九〇六）年神社合祀令を発し一宗教統制を行った。神社合祀令は、村内の各所にあつた小さな神社を合祀することによって管理しやすくしようとしたものである。下砥上では、これを素直に受けたのである。しかしこの神社合祀は、多くの氏子たちをはじめ、南方熊楠や柳田國男等の民俗学者等の反対運動等もあつてやがて衰退した。
砥上神社本殿の傍らに建つこの合祀記念碑は、いまだですっかり忘れられてしまった明治政府の宗教政策を物語るものである。



合祀
記念碑